

国会議員の防災意識

政治部 福元竜哉

国会は通常、立ち入りが制限されており、許可された人しか入れない。

例えば、国会議事堂西隣にある3棟の議員会館は、衆参両院の議員、職員、秘書らが入り出す場所で、部外者の入館には制約がある。だが、あの日、子どもたちの「避難所」となっていたことはあまり知られていない。

民主党の小西洋之参院議員は、東日本大震災の発生後、参院議員会館9階の自室窓から地上の様子を見ていて、異様な光景を目にした。眼下の中学校の校庭に避難していた大勢の生徒たちが、夕闇迫る中、校庭でブルーシートを広げ、風をさえぎるように自分たちの周りを囲い始めたのだ。

「帰宅できず、校庭で夜を明かすつもりだ」

そう悟った小西氏はただちに校長に電話し、議員会館会議室の提供を申し出た。小西氏からの連絡を受けた参院事務局は、西岡武夫議長(当時)の了解を得て、生徒らを会議室に一晩泊めた。

避難してきたのは、千代田区立麴町中学校の生徒約130人と教員約10人。校舎改築のため、国会に近い旧永田小学校を仮校舎として使っていたが、震災当日は余震を警戒して仮校舎内に戻れず、交通網マヒで帰宅もできずにいたのだった。議員会館に入った生徒たちからは「あったかい」と歓声が上がった。

国会には、大規模地震発生時などの危機への備えが、一定程度ある。例えば、衆院では非常食1日5000食を3日分備蓄し、参院でも、「3000人が3日間、寝泊まりできるよう」(事務局)非常食、水、毛布、薬、発電機、ガソリンを蓄えている。ともに、首都の交通・物流がストップし、多くの議員、秘書、職員が帰宅困難になっても、数日間しのげるようにしている。国家的な緊急事態に国会が機能不全にならないようにするもので、国政を中断なく遂行していくための備えといえる。麴町中生徒らの受け入れには、「緊急避難的対応」としてこの備えから食事や毛布が提供された。(以下、略)